

町の小さな俳人 ぞうの気持ちを詠んで 6千句以上の中で最高賞



←1句の創作を通して日本文化の理解や感性を養うことを目的に、世界の15歳以下を対象に行われている「世界こどもハイクコンテスト」。2月8日に市場小で表彰式が行われ、家族や先生、町長のほか多くの報道陣が注目する中、日本航空九州・山口地区の溝之上正充支配人から西田さんに賞状と記念品が手渡されました。コンテストは58の国・地域で開催されています。

俳句を詠む

4世代にわたり心を句に映す

市場小4年の西田咲笑さん(赤池)が、JAL財団主催の「世界こどもハイクコンテスト」の日本大会で大賞を受賞しました。コンテストは1990年から2年に1度開催され、今回15回目。「いきもの」をテーマに、日本からは前回より約1千句多い6千153句が寄せられ、咲笑さんの句は大賞10作品のうちの1つに選ばれました。

咲笑さんが俳句に興味を持ったのは、ご家族がきっかけ。母、祖母、曾祖父と、現在なんと4世代で俳句を嗜んでいるそうです。曾祖父の岩井喜則さんは「鬼童」の俳号で長年にわたり各地で指導を行い、広報ふくちでもお馴染みの「鬼杉赤池俳句教室」を主宰。1年半前の10月、咲笑さんが初めて詠んだ句「本番でかつてうれし運動会」が選句され、広報紙や新聞紙の投句欄に掲載されました。

俳句の基本や楽しみ方 いろいろは

1 基本は簡単五・七・五に 季語が入る「有季定型」

基本ルールはたった2つ。「五・七・五」の定型に「季語」を入れることです。音数で迷う拗音(ぎゃ)などは1音で数えます。対して促音(つまる音)の「っ」や長音(のばす音)はそれだけで1音です。
【例】チョコ↓2音 クッキー↓4音

2 瞬間を切り取り 思い出に残す「吟行」

旅先で詠む俳句は、その時の情景を心とともに思い出として残すことができます。また、普段から四季の移ろいなどに敏感になり、考えや視野が広がります。

3 言葉を見つめ 日本語の奥深さを知る

17音の制約の中で、どのような言葉を選ぼうと表現するか。おのずと言葉の世界を掘り下げる「こころ」がります。

「自分も小学生の頃に父の吟行(俳句)を詠むための外出について行って句を詠んだ記憶があり、咲笑にもすすめてみました」と祖母の建部三由紀さん。以来、カレンダーの裏紙などで作った鬼童先生お手製のノートを持ち歩き、普段から俳句をしたためているそうです。その時々咲笑さんの思いが込められた17音の詩は1年半で100句を超えました。

「自分も小学生の頃に父の吟行(俳句)を詠むための外出について行って句を詠んだ記憶があり、咲笑にもすすめてみました」と祖母の建部三由紀さん。以来、カレンダーの裏紙などで作った鬼童先生お手製のノートを持ち歩き、普段から俳句をしたためているそうです。その時々咲笑さんの思いが込められた17音の詩は1年半で100句を超えました。

咲笑さんの俳句について、母の真美さんは次のように話します。

「学校でのことや大好きな猫について詠んだ句などテーマはさまざま。季語の本から自分にも分かる言葉を探して句を作っ

ているので、季節の植物や食べ物といった風物詩を自然と勉強できているようです。また、受賞した句は、家族で動物園に行った時に詠んだものですが、唯一、象だけが長い鼻を柵の外に出すことができるんですよ。そこに着眼し「象が」ではなく「象の鼻が」出たがっていると表現したところに、子どもならではの感性を感じてうれしく思っています。」

四季に恵まれた日本だからこそ、伝統文芸として定着してきた俳句。日本ならではの四季の移ろいや自然の美しさに心を寄せることができると、近年、その魅力が注目されています。



大賞に選ばれることは非常に難しく、名誉なこと。我々も大変うれしく思っています。これを一つのきっかけに、たくさん本を読み、よく遊び、感性を磨いていってください。
日本航空九州・山口地区
溝之上 正充 支配人



コンテスト優秀作品は、世界で読まれる本に和訳英訳付きの俳句として掲載されます。咲笑さんの句が掲載される第15巻は11月頃に出版された後は「ふくちのち」でも貸出予定。



世界で最も短い詩「俳句」の17音の中で自分の気持ちを表し、大賞を受賞したことは、福智の子どもたちにとっても励みになります。今後もさらに素晴らしい句を作ってください。
福智町
嶋野 勝 町長



第15回世界こどもハイクコンテスト日本大会 大賞受賞
西田 咲笑 さん(市場小4年)
動物園で柵から象が鼻を出している様子を見て、出たがっているように感じました。柵の中でずっと待っているの、象はきっと日が長く感じているだろうと思い、春の季語「日永」を選びました。